

## 浅間山の集中火山観測（第1回）\*

東京大学地震研究所

第1回目の浅間山の集中火山観測は、1977年の秋（9月－10月）に主として行われた。しかし、8月7日から北海道の有珠山が噴火活動を開始したため、当初予定していた地震観測を実施することができず残念であったが、他の観測項目については、おおむね初期の計画どおりに実施できた。

実施した観測項目と参加機関は下表のとおりである。

観測項目	参加機関
水準測量	東大地震研究所
光波測量	東大地震研究所 東大防災研究所
重力測定	東大地震研究所 北大理学部
地磁気・地電流	東大地震研究所
SO <sub>2</sub> 隔測	九大理学部 東大地震研究所
土中ラドン濃度	東大地震研究所 明大工学部
湧水・地下水の成分	東大地震研究所

地震の集中観測を特に実施しなかったが、1977年の三の鳥居観測点における日別頻度は第1図に示すとおりである。2月末の特殊な地震活動を除いて、集中観測期間中は、火山性地震の活動度は平常レベルであった。2月末には、地震数が増加したが、この地震は第2図に示すように、二つの相があり、これらの相の時間間隔のヒストグラムは、3秒－7秒の広い範囲にわたっている。全観測点に観測されていないことから、深い

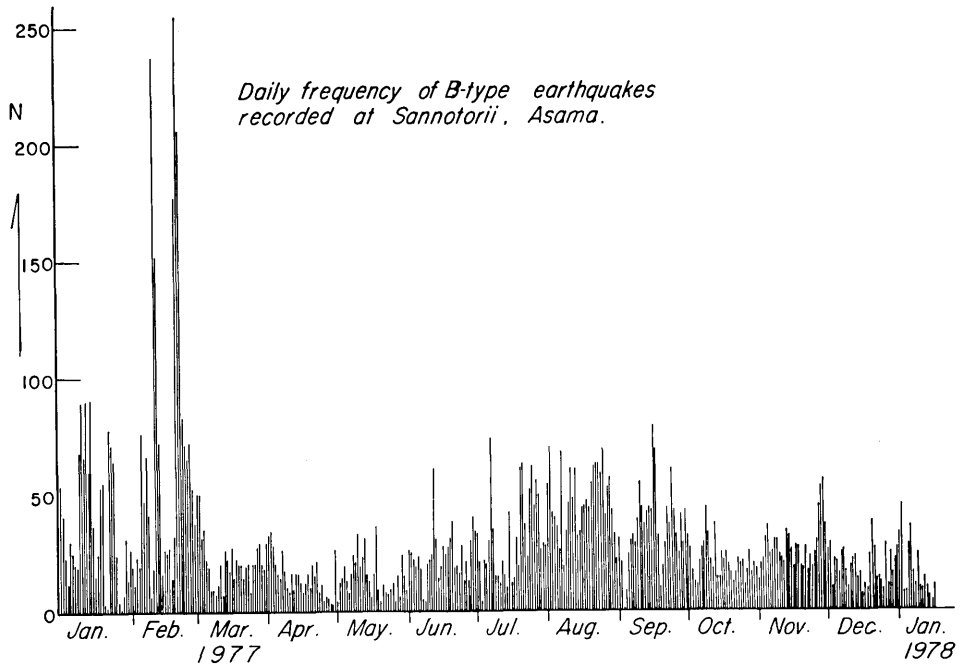
い地震ではなく、二つの地震のペアと見るべきであろう。

集中火山観測結果の検討会は、本年2月8日に地震研究所会議室で行った。

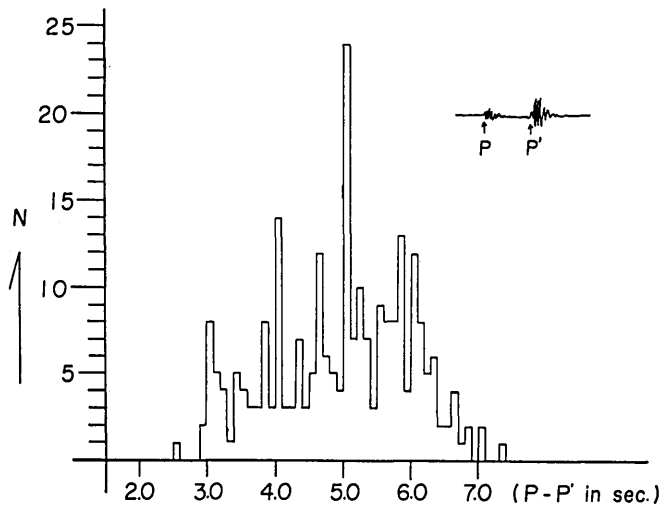
今回は第1回目ということで、それぞれの観測データが示されたが、これらのデータは、浅間山の比較的平穏時における基本的資料として重要である。

さらに、技術的な面で、今後観測上注意すべきことが2,3新しく指摘されたこと、および、ラドン濃度測定、地電流測定など、新しい試みがなされた。また、地下水・湧水の化学成分では、1973年の噴火時に有意義な変化が見られたことは特記すべきことである。これらの成果はごく近く別途印刷報告する予定である。

\* Received Apr. 24, 1978



第1図 浅間火山観測所三の鳥居観測点で記録されたB型地震の日別頻度



第2図 1977年2月末に起きた地震の二つの相の間の時間のヒストグラム